

群馬県立伊勢崎興陽高等学校学校評価一覧表②（平成26年度版）

（様式2）

羅針盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
Ⅰ特色ある学校づくりに努めていますか。	1特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校やクラスが好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。 ②自分が所属する系列の学習活動に満足している生徒が90%以上である。 ③地域との交流活動やボランティア活動に参加した生徒が70%以上である。	A	A	A	①「本校が好き」な生徒は89.3%であった。また、本校への入学やクラスに満足している1年生は、ともに95.5%でありよい結果であった。今後も魅力ある学校作りを推進する。 ②2・3年生で、所属系列に満足している生徒は88.9%であり、引き続き系列等の指導を充実させたい。 ③清掃ボランティアに参加した生徒は28.6%であり、人数は増加傾向にある。	・「愛校心」が高まっていることが、本校の教育の充実の表れだと思います。 ・「本校が好き」が一番大切なことだと思います。今後も魅力ある学校づくりのために、継続的に職員で知恵を出し合って工夫して行って欲しいと思います。 ・①②前年よりも向上していることは努力の結果です。更なる前進を期待します。 ・③生徒それぞれの都合に合わせてください。年々増加には感謝しています。 ・総合学科の特色を活かした学習活動になってきていると思います。 ・優秀で活躍できる生徒が増えました。	・専門教育に特化した総合学科の特色を活かした学習活動を推進し、「学校が好き」な生徒を更に増やす。 ・生徒の希望を実現できるよう、系列や選択科目のガイダンスを充実する。 ・特色あるカリキュラム編成を行い、生徒に力をつける教育活動をより充実させる。 ・地域活動やボランティア活動の機会を増やし、参加を促す。
	2生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	①授業が分かりやすいと感じている生徒が90%以上である。	B	B	B	①授業がわかりやすいと感じている生徒は78.9%で、昨年度より向上している。より一層の授業改善を図る必要がある。	・教師間の連携で、なお一層の前進を期待します。 ・希望の系列に入り特色ある授業が受けられることで、更に前に進む意欲が湧いてくる。勉強が楽しいにつながり学習時間が増えていくと思います。	・ステップアップサポート事業の実施により、生徒が主体的に取り組める授業を実施する。 ・地域の人材や・社会人講師の有効活用を図る。
Ⅱ生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	3生徒は確かな学力を身に付けていますか。	②学期毎に基礎的な学力を向上させている生徒が90%以上である。 ③定期試験前や試験中の家庭学習時間が2時間以上の生徒が70%以上である。	B	B	B	②朝のSHRにおいて集中力を高める学習を行うとともに学期毎に「基礎力テスト」を実施している。 ③定期試験前の学習時間が116分で昨年度よりも向上している。2時間以上学習する生徒も46.1%になった。	・基礎学力も少しずつですが向上していると思えます。 ・昨年度より学習時間が増えていることは、これからの学力向上につながって行くと思います。 ・定期試験前の学習時間が増加してきています。継続して、2時間以上の家庭学習を習慣づけてください。高等学校での学習時間が日本は先進国の中で低いのが現状です。 ・教師間の連携で、なお一層の前進を期待します。	・日々の授業時間を大切にしながら、3年間を見通して基礎学力向上を図る。 ・読書活動の活発化や課題を課すなどで、家庭学習の習慣を身に付けさせる。
	4組織的・継続的な指導を行っていますか。	①誰にでもしっかりと挨拶ができる生徒が60%以上である。 ②全教職員でいじめの未然防止に努めるとともに発生時の解消率が100%である。 ③生徒に関する情報交換会を学期に3回以上実施する。	A	A	A	①挨拶できていると感じている生徒は、53.4%であった。できていない生徒は4.9%なので、中間層への指導を強化・継続する。 ②面談週間なども活用しながら、生徒との意思疎通を心がけるなど早期発見に努めている。 ③職員会議や朝会で、全職員による生徒情報の情報共有化が図られている。	・授業は全ての基本です。学校内だけでなく、社会人とも対等に対処できるような指導をお願いします。 ・挨拶、身だしなみ等がきちんとできる生徒が多くなっています。社会人としても大切であることを教えてください。 ・挨拶や時間を守るなどの生活習慣は、生涯を通じて大切なものであるから、身に付くように継続的に指導していくことが大切だと思います。 ・挨拶は心の問題なので、強制ではなく、自然な形で交わす心地よさが味わえるような指導が大切だと思います。	・挨拶、身だしなみ、時間を守るといった、基本的な生活習慣を身に付けさせる指導を徹底する。 ・生徒情報を共有し、職員の共通理解を図る。
Ⅲ生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	5生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	③生徒の欠席率が2.0%以下である。 ④中途退学者及び転学生徒を5名以下である。 ⑤部活動や研究部の入部率が70%以上である。 ⑥「学校がきれいである」と感じている生徒が80%以上である。	A	A	A	③4月から1月末日現在までの平均欠席率は1.2%（H25は1.2%）と横ばいである。 ④現在の転退学者数は4名であり、さらに生徒に対する細やかな指導が必要である。 ⑤部活動や研究活動に取り組む生徒は74.9%である。 ⑥校内清掃活動はおおむね良好である。校外清掃も実施している。	・転退学者が少ないのは、自分の目的をしっかりとって入学し、充実した学校生活を送っているからだと思えます。また、教職員の一人一人の生徒に対する適切な指導の成果だと思います。 ・③④年々減少は大変喜ばしいことです。このペースを守って指導してください。 ・部活動については毎年生徒数が増えています。在学中にしかできない若者の特権です。更なる支援と指導をお願いします。 ・女子の部活動参加者を増やすために頑張ってください。 ・女子の部活動参加者を増やすために頑張ってください。 ・学校がきれいなことは生徒にとっても大切なことだと思います。4S（整理・整頓・清掃・清潔）に取り組んでください。	・転退学者数は低い水準を維持している。今後も、教職員のきめ細かい指導体制を継続する。 ・学校全体の取組として、出席率の向上を目指す。 ・女子生徒の部活動の活性化を推進したい。
	6計画的な指導を行っていますか。	①進路指導に満足している生徒が95%以上である。 ②生徒が取得した資格が、1.5資格以上である。	A	A	A	①3年生の進路満足度は97.4%である。 ②1年生ではビジネス文書等の検定を行うなど学年全体で計画的に資格取得に取り組んでいる。	・適切な進路指導が行われています。 ・②資格取得は一生の財産になります。根気よく指導し、一つでも多く財産を増やしてやってください。 ・地域の人材、社会人講師によって教科書に載っていない現実の社会を勉強してもらいたい。	・生徒が希望する進路を実現させるため、キャリア教育を推進する。 ・系列の学習に関連した資格を、計画的に取得できるよう指導する。
	7生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	③自分の将来の職業について考え、進路実現に主体的に取り組んでいる生徒が80%以上である。 ④目標とする進路を実現できた生徒が95%以上である。	A	B	A	③1・2年生で進路を決めている生徒は87.3%と増えている。 ④就職未定の生徒に対する個に応じた支援を行い、進路の実現を図る。	・早期に離職してしまうことが全国的な課題となっています。インターンシップの充実等を今後とも継続してください。 ・インターンシップの経験が進路を早く決定する要素の一つになっていると思います。これからも、継続してインターンシップの充実をお願いします。 ・学校が充実していることは「就職率が良い」ということに反映してきます。 ・④生徒に対する個々の指導と心のケアも充分に対応してください。	・インターンシップの推進を図り、職業に対する意識を高める。 ・各学年毎の発達段階に応じたキャリア教育を計画的に実施する。
	8家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	①学校のホームページを月1回以上更新している。 ②学校の教育活動を理解し、満足している保護者が95%以上である。 ③地域行事に積極的に参加するとともに、地域と連携した取組を推進する。	A	A	A	①Webページの更新が積極的になされている。 ②学校の様子がわかっている保護者の割合は77.4%である。また本校の教育活動に満足している保護者は97.3%である。 ③燈華会、まちなか夕市、産業祭等の地域行事に積極的に参加して本校への理解を深める努力をしたり、興陽フェスタを開催して本校の特色を生かした取組を行っている。	・学校のホームページが見やすく学校内の様子が分かり楽しみにしています。 ・家庭、地域に積極的に情報発信が行われています。今後は、家庭や地域からの情報を受信できる体制を整えてください。 ・27年度後期入学者選抜の倍率も県下になりました。大変嬉しいことです。今後もこの位置を守るべく教師・生徒で頑張ってください。	・Webページの更新は行事の主管部署が行えるようにする。 ・学校だよりや学年通信、PTA新聞等を活用して、学校の教育活動に関する広報活動を更に充実させる。 ・興陽フェスタでの地域の食材を使った商品開発、交流活動等を推進する。
9地域教育機関との連携	④保育園・幼稚園・小学校との連携授業や出前授業を年間5回以上行い、交流を深める。	A	A	A	④幼稚園との交流事業は計画通り行われている。本校の教育資源を地域に還元する活動を推進する。	・交流事業は回数を達成することも大事ですが、相互に実りある者にするために、質を重視して取り組んでください。 ・幼稚園との交流は高校生・園児にとって大変有意義なものです。継続的・計画的に行うことで、豊かな体験を積み重ねることができ、園児は人と触れ合う楽しさやコミュニケーション能力が身に付いたり、高校生もいろいろな場面で成長する姿が見られ、互恵的な交流ができています。 ・今後も継続して実施して欲しいと思います。	・地域や異年齢との交流活動を通して、生徒自身が自らの成長を確認できる機会を作る。	

